

2005年8月：先月の重大ニュース

エイズ国際会議開催

世界で急速に拡大しているHIV（エイズウイルス）の予防や治療、必要な政策などについて話し合う「第7回アジア・太平洋地域エイズ国際会議」が神戸市で開催された。国連合同エイズ計画は会議にあわせて発表した報告書で、アジア・太平洋地域におけるHIVの新規感染者数が今後5年間で1200万人に達する恐れがある見通しを明らかにした（1日）。アジア・太平洋地域で親がエイズで死亡した「エイズ孤児」が推計で約150万人にのぼることを

NASAの探査機、彗星に命中

米航空宇宙局(NASA)は彗星探査機ディーピンパクトの子機をテンペル第一彗星の核に衝突させることに成功した。（4日）

2012年夏季五輪はロンドン 国際オリンピック委員会（IOC）は、2012年に開かれる第30回夏季五輪の開催地にロンドンを選んだ。IOCは総会で、夏季五輪の現行28競技をロンドン大会で実施するかどうかの見直し投票を行い、野球とソフトボールは過半数の賛成を得られず、除外された。（6 - 8日）

アスベスト使用、全面禁止へ

厚生労働省は、アスベスト（石綿）＝「ニュースのことは」＝製品を製造していた工場の従業員らに、胸膜にできるがん「中皮腫」などの死亡報告が相次いでいる問題で、08年までに石綿の使用を全面禁止にする方針を決めた。同省は、過去に石綿による従業員の健康被害が発生した約300事業所の立ち入り調査することを決めたほか、退職者についても、健康診断を行うよう要請した。（8日）

▼G8サミット、テロ予防一致して閉幕

6日から開かれていた主要国首脳会議（G8サミット）は、ブレア英首相が議長総括を發表して閉幕。ロンドンでの同時爆破テロを受け、「テロ対策に関するG8首脳声明」も採択。G8の援助額を倍増することにしたアフリカ支援や、気候変動（地球温暖化）など計13の文書をまとめた。（8日）

英同時テロで1人逮捕 ロンドン中心部で地下鉄車両やバスで4件の爆発が起きた（7日）。英捜査当局は、英中部のリーズ市と周辺を家宅捜索し、共犯とみられる1人を逮捕した。ロンドン警視庁によると、実行容疑者は4人のうち3人がパキスタン系英国人とみられ、爆破されたバスなどから犯人の遺体が見つかったことから自爆テロとの見方を強めている。（12日）

労働力人口、10年後410万人減

子どもの数が少なくなる「少子化」が進み、出産後の女性の職場復帰が難しい現状が続いて、国が新たな対策をとらない場合、2015年の労働力人口は現状（04年は6642万人）より約410万人減るとの推計が明らかになった。厚生労働省の研究会の報告によるもの。（13日）

知床、世界遺産に決定

日本政府が新たな世界自然遺産に推薦していた北海道東部の知床が、ユネスコ(国連教育科学文化機関)の世界遺産委員会で、登録されることが決定した。豊かな生態系が高く評価された。国内の世界自然遺産登録は、屋久島(鹿児島県)、白神山地(青森、秋田県)に続いて3番目だが、海域を含む登録は知床が初めて。(14日)

▼中国、元切り上げ

中国の中央銀行(その国の貨幣を発行し、銀行の銀行、政府の銀行として金融政策を運営する銀行)にあたる中国人民銀行は、人民元の為替レート(外国通貨と自国通貨との交換比率)を1ドル=8.28元から1ドル=8.11元に切り上げた。切り上げ幅は2%。米ドルのみに連動させてきた制度も見直し、ユーロや円も含めた複数通貨の動きを参考にする制度に切り替えた。中国の為替制度の大幅な見直しは1994年以来、約11年半ぶり。(21日)

アスベスト使用の公共施設で対策不明3県50か所

人体に有害なアスベスト(石綿)を使っていることが過去の調査で確認された全国の1700余りの公共施設のうち、どのような対策が取られたのか分からない施設が兵庫、佐賀、沖縄の3県で計約50施設あることが、47都道府県と14政令指定市を対象にした朝日新聞の調査でわかった。「当面危険がない」として放置してきたところも全国で約60施設に上り、当時の調査書類の所在がわからずに公共施設での使用実態を把握できていない自治体も11県2市あった。(25日)

6者協議が開幕

北朝鮮の核問題をめぐりアメリカ、日本、韓国、ロシア、中国、北朝鮮が話し合う第4回6者協議が、中国・北京で始まった。北朝鮮首席代表の金桂寛外務次官は開会式で「朝鮮半島の非核化を実現するため実質的な進展を成し遂げることが根本だ」と述べ、「我々は準備ができている」と表明。日本代表の佐々江賢一郎・外務省アジア大洋州局長は拉致問題の解決も求めた。(26日)

シャトル打ち上げ成功

米航空宇宙局(NASA)はフロリダ州ケネディ宇宙センターからスペースシャトル飛行再開機ディスカバリーを打ち上げた。約40分後には予定された地球周回軌道に入り、打ち上げは成功。センサー異常のため、当初13日だった打ち上げが延期されていた。シャトルの飛行は、03年2月のコロンビア空中分解事故から約2年半ぶり。来月7日の帰還まで13日にわたり、野口聡一飛行士(40)ら乗組員7人が、シャトルの補修試験や国際宇宙ステーションへの物資輸送にあたる。野口さんは日本人として5人目、8回目のシャトル搭乗。(26日)